

(1) 全体の総括と体制

■FM事業の枠組みが確立した年

個別事業の企画検討から運営段階へ移行する年度となることから、それに合わせ推進体制も編成し直すと共に、前年度に試行した個別事業に加え、独創的な個別事業も新規に加わり、FM事業の現在の枠組みが完成した記念すべき年になった。

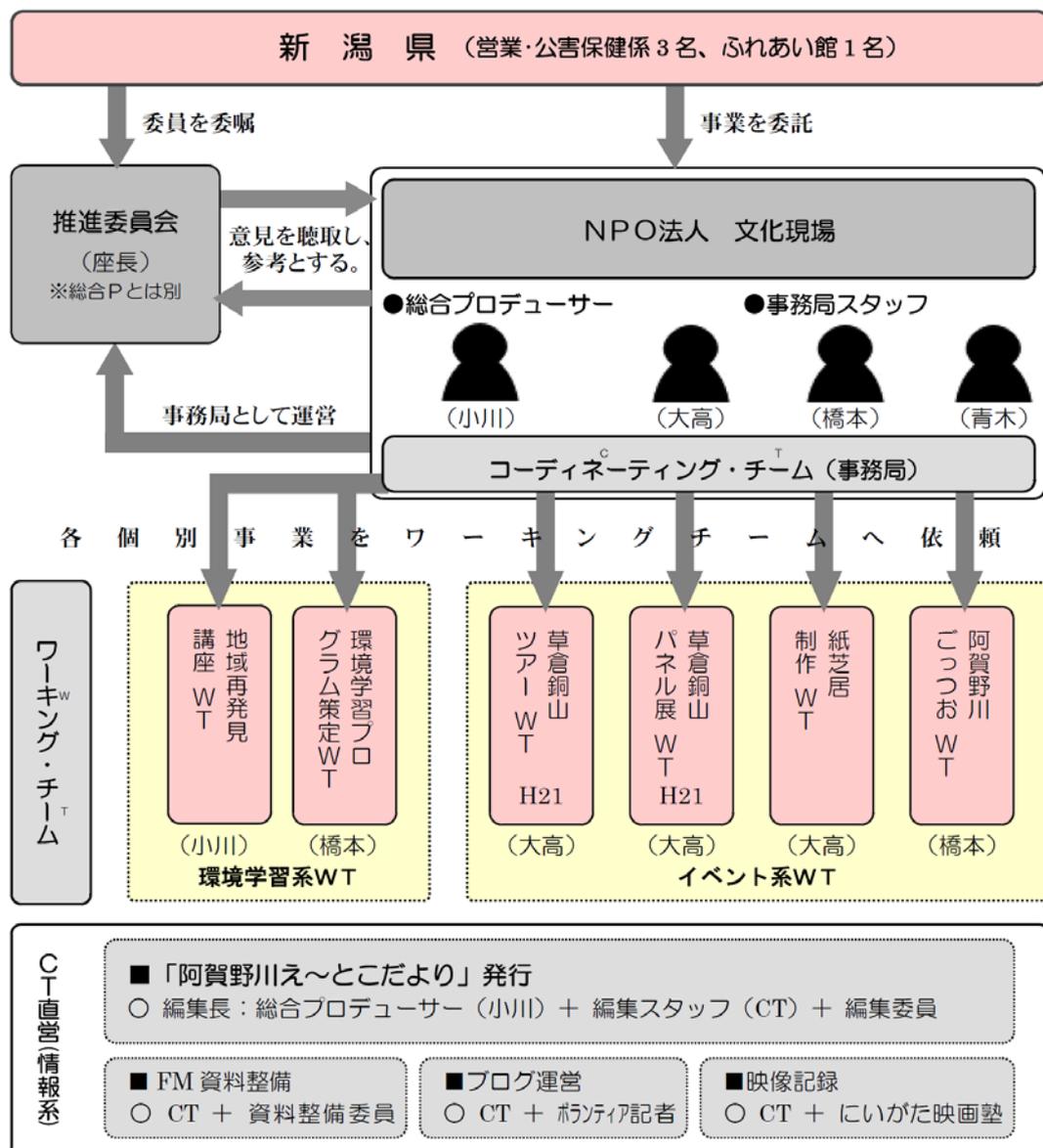


推進委員会の様子

■個別事業を運営するための体制に編成

複数の個別事業を現場で運営していく新たな段階に備えるため、個別事業を企画検討したプロジェクトチームを発展的に解体して、新たにワーキングチーム(WT)を個別事業ごとに編成し、各WTが担当事業の業務を支援していく体制となった。

WTの編成後、5月26日に「第2回推進委員会」が開催され、平成21年度における「環境学習」「イベント」「情報発信」の3分野についての方向性が確認された。



(2) 当該年度の成果や経緯など

■当該年度の所感 ～ 流域の人々との距離を縮めた「ロバダン！」と「資料整備」

FM事業の目的である阿賀野川流域の「もやい直し」は、昭和40年に新潟水俣病の発生が確認されて以来、何度かその必要性が訴えられてきたものの、FM事業が開始されるまで流域ではなかなか進展しなかった。

これまで試みられてきた新潟水俣病に関する啓発や活動に対して、流域に住む多くの人々は、一定の距離を置いてきたのが実情ではないか。

それは、正しい理解というスローガンや新聞報道などを通じた一面的な情報発信が強すぎて、本来多様であるはずの新潟水俣病に対する見方や感じ方などを話し合う機会が、これまで皆無に近かったことと無関係ではないと考えられる。

そこで、FM事業では「ロバダン！」(炉端談義)という取組をスタートさせ、流域の様々な立場や団体の人々から、本音の意見や訴えを聞き出す少人数の寄り合いを、流域各地で開催していくことにした。その結果、これまで埋もれてきた様々な見方や感じ方が流域には数多くあることが確認できた。

一方、「資料整備」では、流域関連の膨大な資料を収集・保存・整理する作業が進められた結果、「光と影の歴史」を描写したパネル作品などを制作できた。そのパネル展は、新潟水俣病への言及にも関わらず、阿賀町内の6旅館等を巡回し、観覧者から大変な共感を呼ぶなど、一定の成果を収めた。

「ロバダン！」「資料整備」が功を奏したことで、イベントや情報発信の分野が進展したのは勿論、流域の人々とFM事業との距離も以前より縮まったと考えている。

■当該年度の成果

平成21年度の事業成果は下記のとおりである。

- 環境学習理念原案の策定
- 草倉銅山ツアーの実施
- パネル巡回展「草倉銅山の光と影」開催
- 紙芝居「阿賀野川物語」制作
- 阿賀野川え～とこだより創刊号・第2号発行
- 阿賀野川え～とこだ!ブログ運営
- 草倉銅山関連・鹿瀬工場タイムスの資料整備を実施
- ロバダン！(炉端談義)の実施
- 地域再発見講座(第2回)「ハモニカ長屋から眺めた風景」開催



「ロバダン！」(炉端談義)の様子



鹿瀬工場タイムス



パネル展示の盛況の様子



地域再発見講座の様子

■当該年度の事業経緯

平成21年度の事業経緯は下記のとおりである。

